

会 議 録

会 議 名 嵐山町立学校統合準備委員会 第1回通学・安全部会						
開 催 日 時	令和6年12月19日(木)			開 会	午後3時00分	
				閉 会	午後4時18分	
開 催 場 所	嵐山町役場 204・205 会議室					
会 議 次 第	1 開 会 2 あいさつ 3 議題 (1) 通学・安全部会の協議事項について (2) 現在の通学状況について (3) スクールバスについて (4) その他 4 閉 会					
公開・非公開 の別	公 開			傍聴者数	なし	
非公開の理由 (非公開の場合)						
委員出欠状況	部 会 長	小野川和史	出	委 員	八木原夏実	出
	委 員	戸坂千寿子	欠	委 員	安藤淳之介	出
	委 員	石森奈通子	出	委 員	高橋 誠 (代理 安藤 環)	出
	委 員	関根盛敏	出	委 員	横澤紗智子	欠

	委 員	服部朋秋	出	委 員	小林正人	出
	委 員	清水 進	出	委 員	荒川 統	出
	委 員	林 雄一 (代理 高野美由紀)	出	委 員	高田 享 (代理 南雲 修)	出
	委 員	西川光治 (代理 加藤崇行)	出			
事 務 局	教 育 長	下村 治	教育総務課長		高橋喜代美 (司会)	
	副課長	尾針雄介	指導主事		吉井大輔	
	指導主事	神田貴裕	主 任		篠崎 照	
	主 任	吉野祐介				
次 第	て ん 末					
1 開 会	事務局 (司会)	7月の統合準備委員会以降、総務部会は今まで3回行ってききましたが、地域の区長さん方については、しばらく間が空いてしまったのでご心配をさせていただいたかと思いますが、ここから通学・安全部会を進めて参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。				
2 あいさつ	小野川 部会長	通学・安全部会を担当することとなりました、玉ノ岡中学校長の小野川です。第1回目ですので、事務局からの話を聞きながら、ご意見をいただければと思います。学校も来週には2学期を終了して冬休みに入るところです。安全という話題で言うと、連日ニュースになっておりました北九州の事件の犯人が逮捕されて本当に良かったなと思いますが、亡くなった生徒は帰ってくることはありません。安全面において、色々な想定外のことが起きている最近でございますので、通学についてのことを中心に統合に向けて色々なご意見をいただければと思います。宜しくお願い致します。				
3 議題		小野川部会長が議長となり、議事を進行				

(1)通学・安全部 会の協議事項 について	事務局	【資料1】により、各記載項目を説明。 【資料1】通学・安全部会について 1. 通学・安全部会で協議する事項 2. 各種期限について 3. 今後の予定
		説明後、質疑応答。
	関根委員	「電動アシスト付自転車購入補助」の対象は小学生ですか、それとも中学生ですか。
	事務局	中学生を想定しています。
	関根委員	電動アシスト付自転車はバッテリーが切れると単なる重い自転車となってしまうので、運用をしっかりとする必要があります。また、わざわざ値段の高い電動アシスト付自転車を補助するのではなくて、速いスポーツタイプやクロスバイクなどの普通の自転車の購入を補助して通学させた方が多少の運動にはなるから良いのではないのかなと思います。滑川中学校の生徒は普通の自転車で通学しているようです。だから、普通の自転車のほうが良いのかなという気がします。
	事務局	基本計画を策定した当時は、古里地域の8km程度の通学距離がある子供たちへの支援という考えから出てきたものです。この制度を検討していく中で、スポーツタイプを適用するかどうか、などの問題を学校側と協議しながら、この場でも電動アシスト付自転車について話し合うときに今の意見ももう一回、皆さんで話し合っていければと思います。よろしくお願いします。
	清水委員	スクールバスと自転車ということですが、もう一点、ライドシェアで通学できるような項目も追加したほうが望ましいのかなと思っています。一般の方にボランティアのような形で協力してもらっていただくという項目も入れておいていただきたい。どうですか。 自動車運転ができる特定の高齢者などに対して嵐山町が特別な資格を与えることで、運用が可能かと思います。なぜならば、遠山と鎌形のあたりは、実際の通学距離はもっと長く、また、カーブや上り坂もあるので、所要時間ももっとかかっていると思います。良い機会なので、見直すべきものは見直していきたいなと思っています。 そこまで見直すとなると、スクールバス運用に大変経費がかかるので、一般のボランティアのような形で協力できる

		ような体制も検討項目として入れておいたほうが望ましいのかなと思います。
	小野川 部会長	ライドシェアとなると、運転手確保の面などで毎日スムーズに運行できるかどうか、などの問題もあるかと思いますので、ここで明確に答えるのは難しいと思います。
	清水委員	ライドシェアについて、検討事項・協議事項として記載しておいてもいいのではないのでしょうか。道路交通法などの色々な法律があるので難しい部分はありますが、できることならやってみたいなと思っています。
	事務局	次回か、次々回になるかもしれませんが、資料を集めて、検討のテーブルに乗せることはしたいと思います。
	清水委員	他の県でもやっているところはあると思いますよ。
	事務局	確認して資料等でお示しさせていただきたいと思います。
	事務局	補足ですが、「3.今後の予定」の中で「4.その他」とありますが、協議が深まっていく中で「この件についても話し合ったほうがいいのか」という事項が出てきたら、「その他」扱いで随時臨機応変に進めていきたいと思っています。
(2)現在の通学 状況について	事務局	【資料 2】 【資料 3】 【資料 4】 により、各記載項目を説明。 【資料 2】 現在の通学状況 【資料 3】 令和 11 年度 児童生徒数予測 【資料 4】 通学距離 MAP
		説明後、質疑応答。
	清水委員	この地図に実際の通学路を記載してもらえると実際の距離が把握できて分かりやすいと思います。例えば町南部の児童生徒は、B&G 海洋センターの方から来る生徒と、橋を渡ってくる生徒などがいて、地図上の距離と実際の通学距離は違うと思います。まずは菅谷小学校・菅谷中学校の通学路から協議して、そこが問題なければ次に進めれば良いと思います。 この地図だと、どの地区からどのくらいの生徒が通っているか分かりません。記載があれば、どの地区から何名で、どのくらいの距離で、どれくらいの時間をかけているのかが分かります。
	事務局	実際の通学距離が直線距離の 1.5 倍や 2 倍などの場合も多々あることは重々承知しておりますが、ここでは、今の状況の位置関係をお示ししたもので、バスルートの検討や

		危険個所の抽出、協議などのフェーズになりましたら、拡大した地図に現在の通学路を色塗りしたものをご用意したいと思います。
	清水委員	今までの話をまとめると、菅谷小学校、菅谷中学校に現在通学している児童生徒については、スクールバスを使用しないという解釈になりますか。統合という良い機会なので、現状を踏まえて全て見直すのはいかがでしょうか。
	事務局	スクールバスのエリアについては、統合の機会に全てを見直すという考え方がある一方、統合によって通学距離が延びる児童生徒を支援する、という考えもありますので、その説明を次の議題で説明させていただきます。
	下村 教育長	この同心円の地図では確かに細かな通学路は分からないと思うので、通学路を検討する段階になりましたら、各校から通学路を挙げてもらうことになります。その場合、お配りすることができないくらい大きな地図、データ量になるかと思います。大まか直線距離で適正に通える距離というのが国から示されていて、小学校で 4km 、中学校で 6km とされています。この同心円については、国の基準と照らし合わせるために示したものですので、それぞれ通学路は違ってくると思います。この後、スクールバスのエリアの検討などの段階でまた違う資料を用意したいと思います。
	清水委員	その国の基準を見直すことはできるのですか。できるだけ、この機会に見直していくべきだと私は思っています。菅谷小学校、菅谷中学校に通っている児童生徒はスクールバスエリア外、という話であれば、会議をする必要はないのではないのでしょうか。 スクールバスのエリアの検討が一番重要なポイントだと思います。
	下村 教育長	国の基準はあくまでも基準であって、実際のスクールバスのエリアは自治体ごとに決めるものです。それをどう適用するかを、その自治体の地形、児童生徒数、経済力などから決めていくこととなろうかと思います。
	小野川 部会長	今日の意見は、今後のテーマを決める際に活かしていければと思います。
(3) スクールバスについて	事務局	【資料 5】 【資料 6】 【資料 7】 により、各記載項目を説明。 【資料 5】 車両区分

		【資料 6】児童生徒数予測 MAP 【資料 7】スクールバス運行 事務局案
		説明後、質疑応答。
	安藤委員	仕事で 9m の車や個人で 7m のバスなども所有していますが、嵐山町は道が狭いことがよくあるので、個人的には小型バスを推奨します。大型車や中型車などはランニングコストが高く、例えば、タイヤ 1 本でもマイクロバスのサイズだと 1 本 20,000 円くらいですが、1 ランク、2 ランク大きくなると 50,000 円や、大型車だと 200,000 円などになります。「中型車 1 台、小型車 1 台」と説明がありましたが、それらを考えると、マイクロバス 2 台とハイエースのような車両を 1 台のほうが、フットワークが軽く、ランニングコストも良いと思います。また、町でマイクロバスを購入して所有すれば、災害時などに、中型免許を持っている職員の運転で避難活動などに活用できると思います。以上を踏まえて、大型バス 1 台持つよりも、小さいバスを 2 台、3 台持っていたほうが効果的なのではないかなと思いました。
	事務局	ご意見として承ります。ありがとうございます。
	服部委員	バスは購入するのですか。業務委託ではないのですか。
	事務局	現在、業務委託で検討を進めております。スクールバスを購入するという選択肢もありますが、車両購入後の管理が難しいと思われます。業務委託の際、そういったことも仕様に入れて契約することも可能かと考えております。
	服部委員	業務委託にする場合、旅客営業法などが関わってきて緑ナンバーになるわけですね。ある議員の個人的なチラシの中には、バス運行時に、席が空いているときは高齢者などを乗せたらいいのではないですか、ということを書かれている方もいらっしゃいましたけども、それが可能かどうか、旅客営業法に抵触しないかどうか、そのあたりをまだご検討されていないようであれば、業者さんと話し合っておかないと、次の議会で聞かれると思いますのでご検討いただきたい。また、今回、新校舎にバスロータリー建設という言葉が入っていたので安心しましたが、学校周辺の道路は大変細く、また、校舎と校舎が道路で分断されるのが心配です。道路を拡幅するにも、プールとプールに挟まれているから拡幅はできない。現在の小学校側、中学校側、どちら側にロータリーを設けようとも、子供たちはその道

		路を横断しなければいけない。安全性を考えた場合、校舎間をつなぐような橋上の歩道橋、もしくは地下道を設けておいたほうがいいのではないのかと、建築図面に申し入れておく必要があるのではないかと思います。
	事務局	バスロータリーについてですが、現在の小学校側に校舎を建設し、同じ小学校側の正門付近にバスロータリーを置く計画で進めています。設計資料が固まりましたら、ホームページなどでも公開することを考えておりますので、お配りすることができると思いますので、もう少しお待ちいただければと思います。 町道の子供たちの横断の危険性についてですが、これまで重ねてきた説明会においても、保護者の方々から多々ご指摘いただいているところです。教育委員会でもその危険性は認識しておりますので、町の道路部局であるまちづくり整備課に相談したところ、地下道、あるいは歩道橋については、警察の許可や建築コストなどの面で難しいと言われているところです。現実的には横断歩道を作って押しボタン式の信号を付けるような形になるかと思いますが、これから調査して検討を進めていきたいと思っています。
	下村 教育長	今、事務局から、スクールバスについては業者委託を検討しているという説明をしましたが、業者委託の管理面やコスト面、直営でのメリットなど、多方面から検討を進めています。管理面から見ると、朝と夕方だけ人と車両を動かす、というのは業者としても困るところだとは思いますが、そのようなことも踏まえて、コスト面、契約の形などの段階から検討したいと思っています。業務委託にはまだ決まっておりませんので、そこだけ補足させてください。
	清水委員	今の話を踏まえると、地域コミュニティバスでの活用も検討できるということですか。朝と夕方だけではなくて、日中も地域コミュニティバスとして使うことができる、という考えでよろしいのですか。
	事務局	教育委員会としましては、新しい学校への通学手段としてのスクールバスを考えておりますので、毎日安心安全に児童生徒を送り届けることが第一だと考えております。そこから派生して、日中に使うことは構わないと思いますが、まずは児童生徒の通学を第一に考え、地域で使うかどうかについては、その次の話、ということで捉えております。

	下村 教育長	朝晩の空いている席に一般の人を乗せるということが書かれていたということですが、かつての計画の中にそのようなことがあったことは承知しております。教育委員会の考えとしては、仮にコミュニバスとして活用することがあったとしても、朝晩の送り迎えのときに一般の人を乗せるということは想定しておりません。スクールバスは子供たちだけで登校して、空いている時間に町で使うということであれば、そこは検討があるかもしれませんが、同乗することは教育委員会としては思っておりませんし、安全上、子供たちだけで登校させたいと考えています。
	石森委員	バスのことで、七郷地区に住んでいて結構関連があるので近所の方などからご意見をいただいているのでお話しさせていただきます。コスト面やバスの種類など色々話が出ていますが、事務局がおっしゃったように、まずは子供たちが毎日安全に通うことが第一であること、毎日スクールバスに乗せるということは、つまり命を預けるんだということを忘れないでほしいです。コスト面のこともあるかとは思いますが、まずは安心、安全なものを選んでほしいと思います。 そもそも七郷地区は児童生徒数が少ないという理由で統合という流れになっていると思うのですが、それを考えると、距離とか運動量とかの問題ではなくて、夜、一人で菅谷地区から暗い七郷地区に帰らせるのは女子でも男子でも親として不安です。また、資料3の児童生徒数ですが、私の知っている限りだと、実際の中学生はもっと少ないです。多分、他の学年も少ないはずです。そうすると、スクールバスの範囲を少しでも広げてほしい。人数が少ないというのはやっぱり不安。電動アシスト付自転車という話も出ているけど、そういうことではなくて、人数が不安です。しかも、玉ノ岡中学校から七郷地区に帰るとき、結構向かい風で、今の時期だと、風の強い日だと、自転車から降りて押している子もいるんですね。女子でも、荷物が多くて降りて押しているのをよく見かけるんですね。そうすると余計に時間がかかります。かと言って毎日車で送り迎えするかということとそれも難しいので、スクールバスの範囲を広げてほしいなと思っています。周りの保護者たちも、不安だよ、と話しているので、強く希望したいと思います。

	小野川 部会長	安全というのが大事ですよ。このことはちゃんと聞かせてもらいました。
	荒川委員	通学路の危険個所の抽出には、非常に時間がかかると思います。地区委員が学校までの通学路を検討、選定、確認し、学校がそれを通学路として承認しているところです。ただ、現段階では、菅谷小学校と志賀小学校の間、志賀小学校と七郷小学校の間の道路の危険個所については把握できていないのが現状です。 志賀小学校区から菅谷小学校区、七郷小学校区から志賀小学校区などへの通学路が決まらないことには、危険個所の抽出もできません。通学路と合わせて、待ち合わせ場所の設定など、複雑なことも絡んでくるので、道路の修復に長い場合だと2年かかるというということは、学校だけで進めるのは難しいので、PTAの力を借りながら進めるとしても、2年前の通学路決定もまあまあタイトかな、と。スクールバスも大事ですが、そこを頭に入れておかないと、通学路を決めるのにすごく時間がかかるということを述べさせてもらいました。
	小野川 部会長	今日、色々なご意見をいただきましたが、子供の安全が優先、ということ。ただし、そこにはコスト面とか色々あるかとは思いますが、色々な方面から考えていければと思います。
	清水委員	次回までに菅谷小学校と菅谷中学校の通学路の実態調査をお願いしたいと思います。現在の通学路での実際の距離と所要時間を。それがないとスクールバスのエリア決めの判断がつかないと思います。この統合については多くの町民が興味を持っていると思います。この機会だから見直すべきだ、という意見も聞いています。重要なのは通学距離ではなくて所要時間だと思います、そうすれば、スクールバスが適当だと思われるエリアも出てくると思います。
	事務局	次回の会議まで、必ずお約束というわけにはいきませんが、できるかぎりの資料は準備したいと思います。今日お配りした資料2を見ていただきたいのですが、菅谷小学校の一番遠い児童が將軍澤で3.5kmあってほぼ1時間かかっています。距離だけでは測れないものがあるということを示している資料でもあるので、次回会議まで実情を踏まえて資料を準備できればいいなと思っております。

(4)その他	事務局	次回の通学・安全部会の日程を決めさせていただきたいと 思います。1月は資料作成の時間とさせていただき、2月 3～7日で組ませていただきたいと思います。
		委員、事務局による日程調整
	事務局	次回会議は2月4日午後5時からとし、場所は改めてお 知らせします。合わせて、2月19日午後5時から総務部 会、5時30分から統合準備委員会を開催したいと思いま すので、ご予約をお願いします。
4 閉 会	事務局	

以上、会議のてん末を記載し、その相違なきを証するため、ここに署名する。

令和 7 年 2 月 4 日

部会長 小野 川 和史